

3 交通施設整備の方針（四日市市都市総合交通戦略より）

人口減少・少子高齢化社会の到来の中で、活力ある都市を維持していくために、四日市市に暮らす人、訪れる人すべてが自由に快適に移動し交流できるまちを目指します。 そのためには、関係者の連携した取り組みが欠かせません。

ここでは、利用者、公共交通事業者、国・県・警察等関係機関などの関係者とともに取り組む総合的な交通施策を示す「四日市市都市総合交通戦略」の基本となる考え方を交通施設整備の方針として示します。

（１）戦略１：自由に移動し交流できる公共交通体系づくり

鉄道と幹線バス網を中心に、支線バス・コミュニティバス等が連携し、中心市街地や病院・学校など暮らしに必要な拠点施設へ快適で便利に行くことができる公共交通の整ったまちを目指します。

【施策の方針】

鉄道と幹線バス路線で構成する基幹公共交通網の形成

鉄道輸送では、サービスの維持・向上及び安全性の確保とともに利用の拡大を図り、地方鉄道及び支線の路線維持を図ります。バス輸送では、鉄道を補完し、通勤・通学などを分担する骨格となる幹線バスと支線バスを組み合わせた効率的な路線への再編に取り組み、幹線バス路線の定時性や頻発性を確保します。

生活圏内の移動手段確保

利用者や運行頻度が少ない路線や公共交通が整備されていない地域では、高齢者など交通弱者の移動手段を確保するために、病院や商業施設など生活に必要なルートを回る支線バス路線への再編や「生活バスよっかいち」のような地域が参画したコミュニティバスの導入に取り組みます。



生活バスよっかいち 乗車風景

公共交通の基点や接続点における利便性・快適性の向上

駅や幹線バスと支線バスの乗り継ぎ箇所など、基幹公共交通への接続点では、自家用車や自転車と鉄道・バスの乗り継ぎがスムーズにできる環境を整えるとともに、地域の商業機能や駅等と連携した交流と交通の複合拠点（コミュニティターミナル）づくりを進めます。

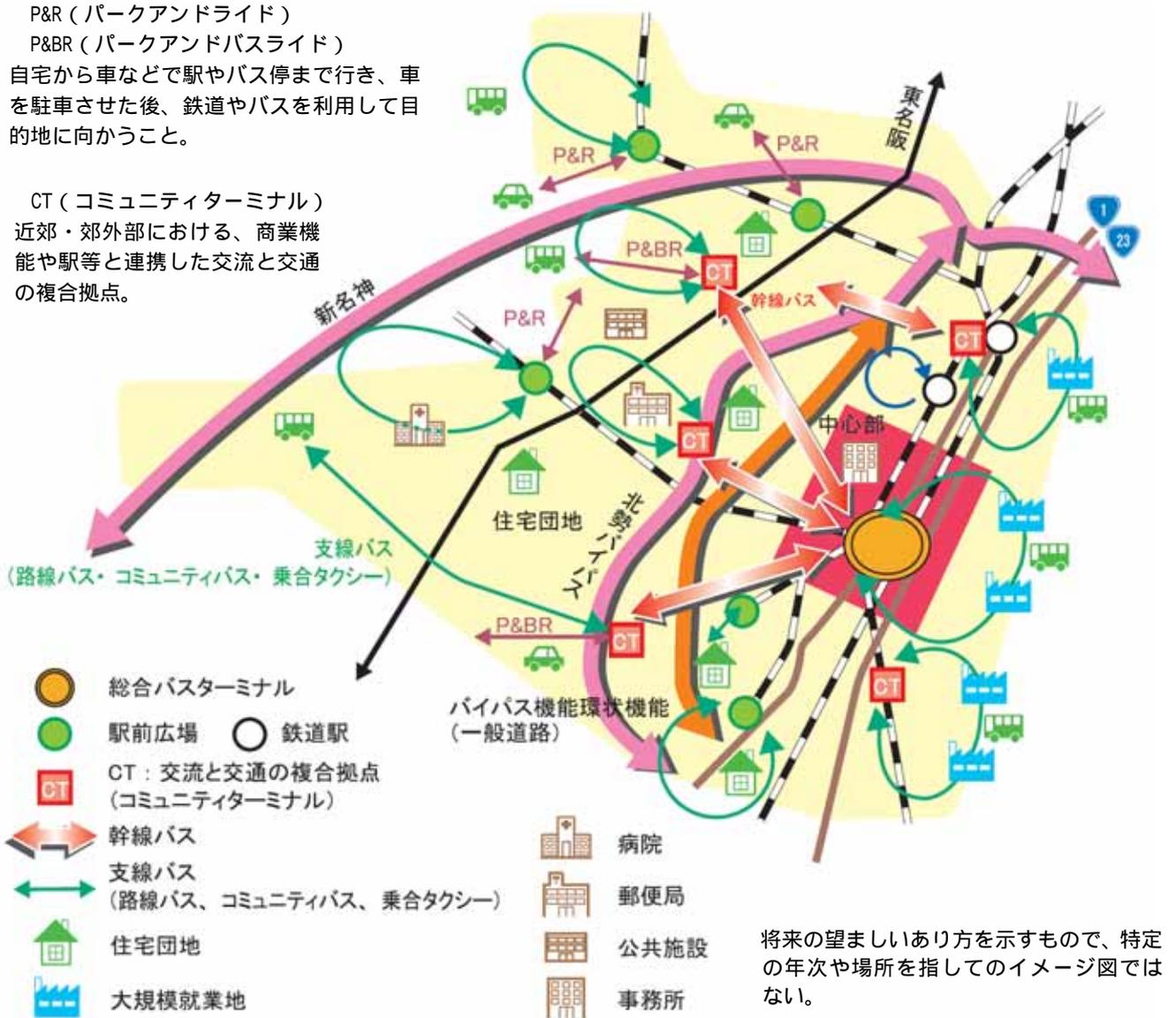


コミュニティターミナルのイメージ

将来の目指す方向（イメージ図）

P&R（パークアンドライド）
 P&BR（パークアンドバスライド）
 自宅から車などで駅やバス停まで行き、車を駐車させた後、鉄道やバスを利用して目的地に向かうこと。

CT（コミュニティターミナル）
 近郊・郊外部における、商業機能や駅等と連携した交流と交通の複合拠点。



将来の望ましいあり方を示すもので、特定の年次や場所を指してのイメージ図ではない。

（２）戦略２：円滑な交通を支える道づくり

環状道路などバイパス機能を発揮する道路が整い、深刻な渋滞や通過交通の生活空間への流入などの問題が解消されており、歩いたり自転車に乗ったり、一人ひとりの暮らしの場から学校や職場、商店などの目的地まで、安全で快適な道路空間がつながっているまちを目指します。

【施策の方針】

必要な幹線道路の整備や交差点改良などの推進

東名阪自動車道や国道1号、23号における渋滞の抜本的な解消を目的に、新名神高速道路や北勢バイパスなどの整備による通過交通の分散を目指して取り組むとともに、通勤時や当面の渋滞緩和対策として環状道路やバイパス機能を持つ道路の整備や渋滞交差点などのネック点の改良を進めます。



整備が進む北勢バイパス

歩いて暮らせるまちづくりを支える道づくり

駅や学校、商店など暮らしに必要な移動を支えるために、歩行者や自転車などの安全に配慮した道路の整備を進めます。



路肩をカラー舗装化した
東海道



自転車レーンが整備された
中央通り

道路整備状況図

歩行空間の整備

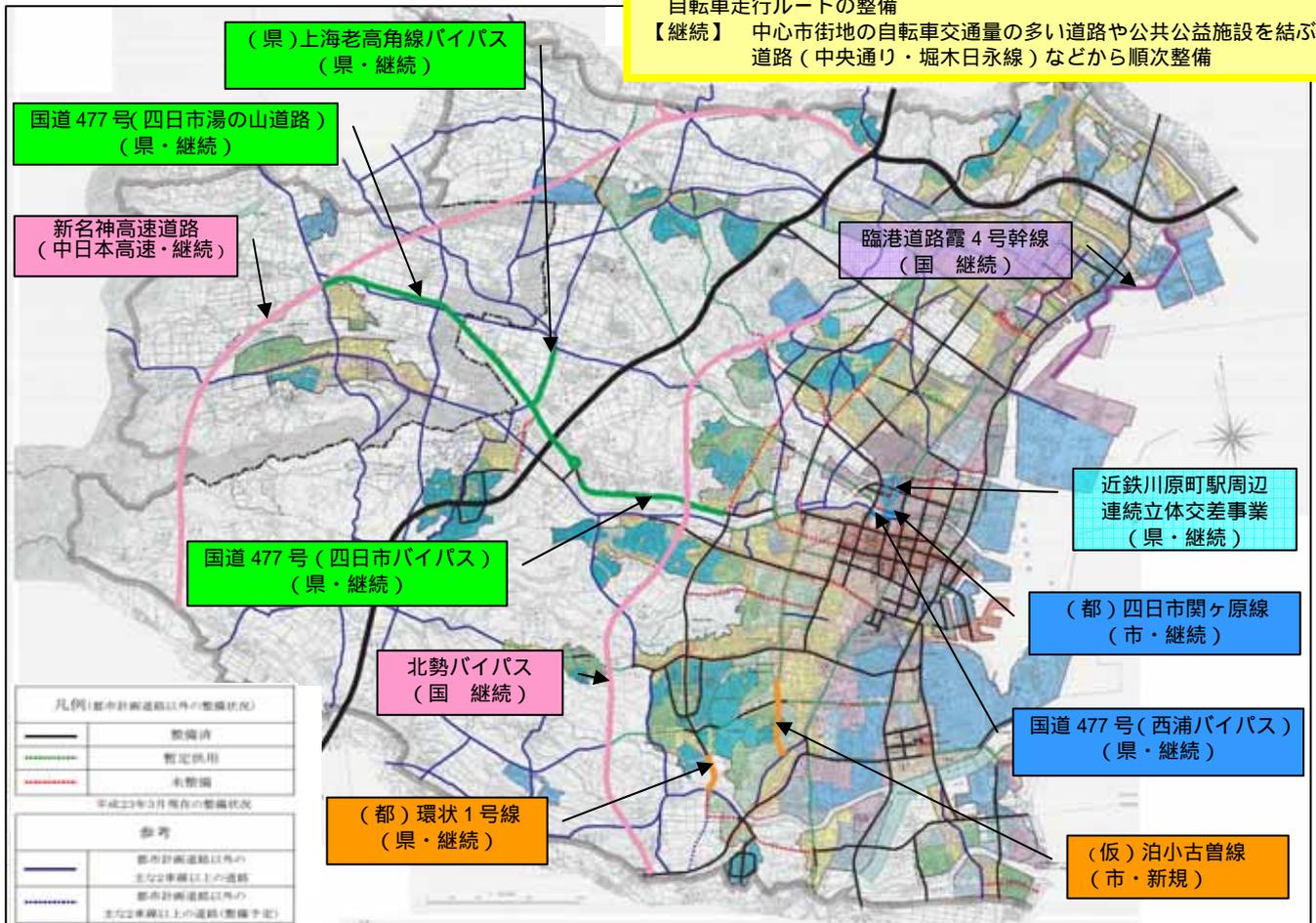
【継続】 国道1号、東海道、市道日永東日野線、
(都)金場新正線(三滝通り)
(都)高松川越海岸線など

【新規】 (都)霞ヶ浦羽津山線など

調整済みの路線から順次実施

自転車走行ルートの整備

【継続】 中心市街地の自転車交通量の多い道路や公共施設を結ぶ
道路(中央通り・堀木日永線)などから順次整備



(3) 戦略3：まちなかの賑わいづくり

まちなかでは、頻度の高いバスやレンタサイクルなどで自由に行きたい所へ移動できる環境が整い、まちなかを中心に、他の駅周辺での個性的なまちづくりの拠点や郊外部の自然や農環境を活かした交流施設などへも公共交通で移動できるネットワークが整っているまちを目指します。

【施策の方針】

まちなかにおける「歩いて暮らせる・歩いて楽しいまち」のシンボル空間づくり

まちなかでは、買い物やレジャーなどの目的に応じて多様な移動手段を整備します。また、来訪者が快適にサービスを楽しむように、歩いて楽しいシンボル空間を整備し、にぎわいを創出します。



リニューアルされたふれあいモール

まちづくりと連携した公共交通づくり

鉄道網やバス路線の起点となっている近鉄・JR四日市駅周辺を、わかりやすく便利に再編するとともに、主要駅や郊外地域では、商業機能等と連携した交流と交通の複合拠点（コミュニティターミナル）化を図り、まちなかの交通拠点と相互に連携したまちづくりのネットワークを形成します。

(4) 戦略4：市民・公共交通事業者・行政の連携づくり

市民、事業者、行政が一丸となって都市総合交通戦略の実現に向けて取り組みが進んでいます。

また、市民一人ひとりが自動車への過度な依存を見直し、公共交通や自転車を活用したライフスタイルへの転換が進んでいるまちを目指します。

【施策の方針】

市民の意識と行動の改革

市民自らが、自動車への過度な依存を見直し、公共交通や自転車を利用するなど、ライフスタイルの転換に関係者が一丸となって取り組んでいきます。

都市総合交通戦略の策定と進行管理

四日市市都市総合交通戦略協議会を継続的に設置・運営し、関係者が相互に連携しながら戦略の修正や進行管理を行います。



複数の事業所が連携して取り組んでいるエコ通勤